



東京の会通信

No.294

2021年1月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

新型コロナウイルス感染症の 収束を願って

骨髄バンクを支援する東京の会の皆さま、東京の会通信を購読されている皆様、全国で活動する骨髄バンクボランティアの皆さま、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、年頭より新型コロナウイルスの感染症の流行により、私たちの活動は大きな制約を受けざるを得ませんでした。3密を避けるために、会議や多人数が集まるイベント等は中止し、献血ルームなどでのドナー登録活動も一時休止となりました。ドナー登録活動はその後再開しましたが、コロナ禍による外出自粛やイベント中止の影響などにより献血者やドナー登録者は減少しており、今後、骨髄移植が必要な患者さんの治療にも大きな影響が出るのではないかと懸念されます。

この原稿を書いているのは12月初旬であります、感染者が連日過去最高を上回る勢いが続いており、専門家の間でも、このまま推移すれば、すぐ医療崩壊に至るとの心配の声が連日聞かれます。GoToトラベルもGoToイートも部分的にはありますが、中止する自治

体が出始めています。今後行われる対策にも、紆余曲折があるのではないかと懸念いたしておりますが、この会報が皆様の手元に届く1月初旬には、収束の方向に向かっていくことを切に願います。

このような状況下においても、東京の会は地道な活動を続けました。その活動の報告は東京の会通信担当の方々に譲ります。

東京の会は、2020年11月をもって、事務所を全国協議会事務所に移転いたしました。同居についてのご判断をいただいた全国協議会には心から感謝申し上げますとともに、骨髄バンク支援や患者さんを支援する活動について、全国協議会とともに手を携えて、発展させたいと願っております。

そして、私たちの活動が、一日でも早く、正常な状態に戻り、これまでと同じ活動ができるようお願いしながら、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

(骨髄バンクを支援する東京の会代表・三瓶和義)

品川運輸様に感謝のご挨拶

東京の会の会報発送作業「おりおり」は、20数年にわたり、品川運輸様の会議室を提供していただきました。今回の事務所移転により、今後は事務所で発送作業を行うことになりましたので、11月24日、三瓶代表、若木代表代理、新田顧問(前代表)、骨髄バンク創立期の頃から、財団ボランティアとして、また、東京の会の中心として活動を続けてこられた中谷光子さんとの4人で、感謝を込めて品川運輸様にご挨拶に伺いました。

品川運輸では、毛塚久恵社長に應對していただきました。久恵社長は、父親で前社長毛塚眞次氏(4年前にご逝去)の二女に当たり、父親亡き後、社長を引き継ぎ現在に至ります。

先代社長の毛塚眞次氏は、奥様が骨髄移植を受けて以来、骨髄バンクの発展と患者支援のため、東京マリーノータリークラブで、積極的に活動されました。現在の骨

髄バンクが、骨髄移植推進財団として活動を開始し、しばらくしたころ、品川地区で毎年のようにあやちゃん展を開催し、私も父親ということで、例会や総会に何回か出席させていただきました。そのつど、「きち子基金」に多額のご寄付をいただき患者さんへの支援にも多大な貢献をされました。東京の会が毎年参加させていただいている、しながわ宿場祭りの活動も毛塚眞次氏のご尽力によるものです。

当時の毛塚眞次氏は、社長として旺盛にご活躍されており、社業と同時に、骨髄バンクを支える活動もしていた時期です。イベントが終了し、打ち上げの席で骨髄バンクと患者支援の発言をしているときは、力強さがみなぎった表情そのものであったと記憶しています。私たちにとっても、力強い、心強い応援のメッセージでありました。

2003年には、毛塚氏のお力添えもあり東京マリーノータリークラブを通じて最新型の紙折り機を寄付してい

いただきました。このことにより、発送作業は現在まで、20年以上にわたり滞りなく続けることができました。

今回、品川運輸様へお礼に伺い、改めて、東京マリンロータリークラブの御支援と、毛塚眞次氏の当時のご活躍に思いを馳せることができ、感慨深いものがありました。

ここに先代の毛塚社長、及び、久恵社長、ご家族、そして社員の皆さまには、心からの感謝を申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(代表 三瓶和義)

品川運輸さんと宿場まつりとおりおりと

冒頭から私個人のはなして恐縮ですが、私が骨髓ドナーになったのは93年夏のことでした。その年の12月、私達でも参加できる事と思って、会報発送作業(おりおり)に行きました。最初の会場は四谷のちょっと分かりにくいところで先輩会員さんが迎えに来てくれました。そこで何回かおりおりをした後、会場が東大医科研のプレハブの建物に移りました。そちらには数回行っただけで、会場確保は大変だったと思います。次は大井町の品川運輸さんの会議室になりました。94年9月からで、それから長いお付き合いが始まりました。

品川運輸さんの社長、毛塚眞次さんの奥様翠さんがこのころ骨髓移植を受けられて、回復の途中でした。毛塚さんはいつもニコニコして、会場を貸してくださって、また三人のお嬢さんはまだ小学生ぐらいで、会場でママ(翠さん)に宿題を教えてもらったり、時にはおりおりの手伝いをしたりしていました。

屋上でバーベキューもしました。もっぱら毛塚さんのおもたせで、美味しい上等なお肉や魚介類をふんだんに頂きました。

しながわ宿場まつりに誘ってくださったのも毛塚さんで

日本骨髓バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和2年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	531,010	66,883	60,622
10-11月登録分	5,992	751	452
10-11月抹消数	4,052	501	-
実質登録増	1,940	250	-

した。最初の頃は尾張屋さんと言う呉服屋さんで着替えをして、パレードに参加しました。福崎豊一さ



中央が品川運輸毛塚久恵社長

さんと山本順子さんが「おてもやん」に扮しました。順子さんの「おてもやん」は本当にきれいでした。一方福崎さんはむくつけき男性。沿道の大爆笑を誘いました。またあるときは、毛塚さんが交通安全協会の会長として先頭車両に乗って、パレードを先導しました。尾張屋さんや品川寺さんの前でチャリテーバザーを開かせていただきました。

宿場まつりの時の野菜や果物、その他の色々な物も、おりおりの会場にある紙折り機も毛塚さんが所属する東京マリンロータリークラブ(現東京港南マリンロータリークラブ)さんのご支援で買って頂きました。紙折り機が届いた時は、その早さに驚きました。

もうひとつ特筆しておきたいのは品川運輸の従業員さんのことです。私たちがいつ行っても、礼儀正しく、気持ちよく接して下さいました。

そんなこんなで約26年間、本当によくしていただきました。この度、おりおりの会場が神田の事務所に移ることになり、11月24日ご挨拶に行つて来ました。2016年に毛塚眞次社長さんが亡くなられ、後任は久恵さんがなられました。まだ幼いお子さんを育てながら立派に事業を継続している様子に、嬉しく思つて帰宅しました。

品川運輸様、本当に長い間、有難うございました。

(中谷光子)

患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	844,639人
ドナー登録抹消者数(累計)	313,629人
HLA適合報告ドナー数(累計)	334,133人
実質登録患者実数(現在)	1,838人(国内1,309人)
HLA適合患者数(累計)	48,221人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	24,946例(10-11月実施198例)

東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月23日(土)、2月27日(土)午後5時30分より
会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館)3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※3月定例会予定・3月27日(土)午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

東京ドナー登録会予定(1月・2月)

新型コロナ感染拡大のため献血バスでの献血・ドナー登録の開催が困難な状況です。ドナー登録は献血ルームで常時受け付けています。献血もドナー登録も減少しています。ぜひ献血と同時に献血ルームで骨髓ドナー登録をお願いします。

コロナ禍でも元気に開催しました！ 東京雪祭スノーバンク！

コロナ禍でいろいろなイベントが中止になる中で、スノーバンクは屋外での開催ということで換気や「3密」を避ける等の対処が取り易い面が幸いしたと思いますが、開催本部がしっかりとコロナ対策を準備して、今年も11月14日と15日に開催されました。

代々木公園の会場をぐるりとフェンスで囲い、2ヶ所にゲートを設けて、来場者はゲートで検温、手の消毒、マスク着用の確認を受けてから会場に入りました。

2日間とも晴天に恵まれ、献血とドナー登録のテントで活動する私達説明員には寒くなくてありがたいお天気でしたが、人工雪の特設ゲレンデの下には雪が溶けて水が溜まり、1日雪が保つのか心配になるほどでした。

スノーバンクはスノーボードを楽しむと同時に献血と骨髄バンクにも協力しよう!と2011年から続いているイベントで、今年も多くの来場者が献血バス前のテントに寄って協力してくれました。

献血者は2日間で目標にしていた222名を大きく超えて271名!スノーバンク参加者に「献血への協力」の意識が浸透、定着したことを感じました。

ドナー登録は、毎年でも協力できる献血と違って、今年は「すでに登録しています」という人が63名もあって、新規の登録者は2日間で85名。目標の111名には届きませんが、毎年継続して多くの登録者があることは大きな成果

です。

東京の会では定期的に献血ルームでドナー登録会を行っています。最近



献血に来る人のほとんどが予約をしてから来るようになっていて、予約時間に間に合わなくなるからと献血受付と問診の間でドナー登録の説明をさせてもらうのが難しくなっています。コロナ感染拡大以降、ルームに一時にたくさんの人が来て受付に行列したり、ルーム内で密になることを避けるため、日赤が一日中まんべんなく適正な人数の来場者になるように予約を献血協力者をお願いしているからです。

献血ルームにたくさん人が来ているのに説明ができないう不完全燃焼のような活動が続いていたところでしたので、久しぶりにスノーバンクではたくさんの人に説明することができ、登録していただけた喜びもたくさん感じることができて、開催にご苦労されたスノーバンク関係者の皆様に、そして来場者の皆様に心より「ありがとう!」を伝えたいです。

来年もまた、今度はコロナの心配無く開催できることを願っています。(松下倫子)

「甚大災害復興支援イベント」でドナー登録が出来ます!

毎年、3月11日前後の日曜日に、東京新都心ライオンズクラブが主催する「東日本大震災をはじめとする甚大災害復興支援イベント」が、新宿中央公園内で開催されています。残念ながら2020年は新型コロナウィルス感染拡大により中止となりましたが、今年は10年目の節目であることから、感染防止対策を徹底しながら開催する運びとなりました。

そしてイベント会場に献血バスを配車して、献血と同時に骨髄ドナー登録もおこなうこととなりました。

イベント内容はまだ未確定ですが、今回の献血・ドナー登録では、事前申込書を都内ライオンズクラブや関係団体

に配布して、あらかじめ申し込みをしてもらう方法を初めて試みます。コロナ禍で、献血もドナー登録も件数が減少している昨今です。ぜひこの機会に感染に気をつけて、献血・ドナー登録をよろしく願いいたします。

日時：2021年3月7日(日) 10:00～16:00

場所：新宿中央公園「水の広場」

主催：東京新都心ライオンズクラブ

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により開催を中止する場合があります。

3月会報発送

「おりおり」のお知らせ

【注意!】今年から会場と曜日が変更となります!

東京の会事務所移転に伴い、おりおりは
全国協議会事務所での開催となります。

また、曜日も日曜日に変更となりますのでご注意ください。

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

※5月「おりおり」予定・5月9日(日) 14時00分より

日時：3月6日(土) 14時00分より

3月は7日(日)にイベントがあるため、「おりおり」を6日(土)に変更します。

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

編集者

雑記



▼菅義偉首相の看板政策の一つ、不妊治療への公的医療保険の適用拡大について、厚生労働省内で具体化へ向けての議論が始まりました。不妊治療は現在保険適用外の自由診療のため、高額な治療費がかかります。不妊治療の一般的な治療方法では、妊娠しやすい日を指導する「タイミング療法」で数千円～1万円程度、「人工授精法」で1万円～数万円程度、高度不妊治療である「体外受精・顕微授精」では数十万円程度の治療費がかかります。治療が1回で終了するとは限らず、出産まで何回も治療を繰り返す場合もあり、金銭面の負担が大きく治療を続けられず出産を断念するケースも多くあります。

▼少子高齢化が加速する日本では、子供の出生を望んでいる夫婦が出産できる環境を整えていくことが大きな課題です。不妊治療の公的医療保険の適用に向け、「2022年度に保険適用」とする政府の工程表が判明しました。工程表によると、厚生労働省は、菅義偉首相が議長を務める全世代型社会保障検討会議がまとめる2020年12月の最終報告に合わせ、不妊治療の実施件数や費用などの実態調査の中間報告をまとめます。これを受けて、日本産科婦人科学会などが医療機関向けの診療ガイドライン(指針)の策定作業を始めます。ガイドライン策定後、中央社会保険医療協議会(厚労相の諮問機関)が体外受精や顕微授精などについて、標準的な治療法や診療報酬(価格)などを議論します。政府は2022年初めには保険適用を正式決定する方向です。

▼またこの保険適用が実現するまではつなぎとして、助成制度を大幅に拡充する予定です。現在は治療の初回のみ助成額が30万円、2回目以降は15万円にとどまっていますが、2回目以降も30万円を維持して通算6回(40～42歳は3回)を上限とし、出産すれば回数のリセットが検討されています。現行定められている夫婦の合計所得が730万円未満との所得制限も撤廃する方針です。また、保険適用外の先進医療と適用対象の治療の併用(混合診療)について、出来るだけ広い範囲で保険適用が可能となるよう調整を進めます。妊娠しても流産や死産を繰り返す不育症についても、治療の保険適用を含めて支援策が検討されています。そして、不妊治療を受けやすい職場環境を整備するため、仕事と治療の両立支援策の具体化

も進めます。同省の「働き方改革推進支援助成金」や「両立支援等助成金」を中小企業が受給できるような仕組みに変えるとともに、治療のための休暇制度導入を支援する企業向けのセミナーも開催が予定されます。

▼一般の不妊治療への保険適用が実施されても、若いがん患者の妊娠の機会を守るための不妊治療に対する助成については担保されないケースがあります。白血病など血液疾患を始めがんの治療で抗がん剤や放射線の治療を受けると、生殖機能が影響を受け、不妊になる場合があります。将来、自分の手で赤ちゃんを授かりたいとして子を産む可能性を高めるには、がん治療の前に精子や卵子などの凍結保存が必要です。しかし費用の目安は30万円程度。医療機関によっては100万円を超える場合もあり凍結した精子・卵子を保存するための更新料も継続してかかります。がんの治療費も支払う患者としては金銭的に大きな負担となっています。

▼不妊治療支援拡充議員連盟(会長・甘利明党税制調査会長、幹事長・野田聖子元総務相)は12日、菅義偉首相を官邸に訪ね、若い世代のがん患者への不妊治療に関する経済支援を要望しました。40歳未満の若い世代(AYA世代)のがん患者が抗がん剤などの治療を始める前に卵子や精子を凍結保存する場合の公的支援や、男女ともに不妊治療のために利用できる休暇制度の導入支援などです。抗がん剤治療などにより生殖機能が低下し、不妊リスクが生じる場合があり、精子や卵子を凍結保存する費用などの助成制度を設けている自治体もあり、議連は国としての経済的な支援が必要だと訴えました。議連幹事長の野田聖子元総務相は、菅首相と面会后、支援充実により「妊娠が不可能だった人たちが、治った後に親になれるという新しい社会が見えてくる」と強調しました。

▼現在、全国骨髄バンク推進連絡協議会では、造血細胞移植や抗がん剤治療を開始する予定の患者さんで「未授精卵子保存を希望する女性患者さん」への助成として「こうのとりのマリン基金」を、「精子保存を希望する男性患者さん」への助成として「志村大輔基金」を運営しています。一般の方からの寄付により運営している基金であり、現在まで「こうのとりのマリン基金」で31件約650万円、「志村大輔基金」で80件約300万円の助成をし、患者さんから「将来子供を授かる夢を抱いて前向きに治療に専念できる」との感謝の声をいただいています。若い世代のがん患者への不妊治療に関する経済支援が国の制度として整えば、全国協議会の基金の役割も無事終了します。早急に制度が整う事を願うばかりです。(A)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2020.10.16～12.15)

清水展美さん 7,000円／南川英則さん 3,000円／鳥羽雅行さん 30,000円／中川里枝子さん 2,000円
内田恵美子さん 3,000円／水流正秀さん 7,000円／株式会社マルゼン様 6,566円／匿名希望 10,000円
東井朝仁さん 5,000円／佐藤淳子さん 5,000円／船奥保さん・幸代さん 5,000円／柴山泉さん 7,000円
中嶋一雄さん 30,000円／北山瑛子さん 3,000円／中谷哲郎さん・光子さん 10,000円
水野暁子さん 5,000円／大塚礼子さん 50,000円／丸尾悦子さん 20,000円／大石邦子さん 20,000円
小柴良介さん 2,000円／三品雅義さん 10,000円／及川耕造さん 30,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。